

製品名: Dlx-4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10028**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	DLX4
別名	DLX4; BP1; DLX7; DLX8; DLX9; Homeobox protein DLX-4; Beta protein 1; Homeobox protein DLX-7; Homeobox protein DLX-8
遺伝子 ID	1748.0
SwissProt ID	Q92988
免疫原	抗血清はヒト DLX4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

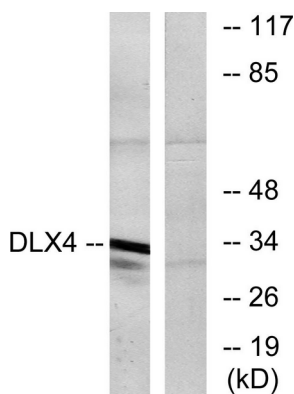
ショウジョウバエの発生遺伝子との配列相同性に基づき、多くの脊椎動物のホメオボックス含有遺伝子が同定されている。Dlx 遺伝子

ファミリーのメンバーは、発生中のショウジョウバエの頭部と四肢で発現する遺伝子である Distal-less (Dll) のホメオボックスと関連している。Distal-less (Dlx) 遺伝子ファミリーは、DLX1~DLX6 の少なくとも 6 つの異なるメンバーから構成される。DLX タンパク質は、前脳と頭蓋顔面の発生に関与すると考えられている。この遺伝子には 3 つの転写バリエーションが記載されているが、そのうち 1 つのバリエーションの全長は記載されていない。2 つのスプライスバリエーションの研究により、コードされているアイソフォームの 1 つは β グロビン遺伝子のリプレッサーとして機能し、もう 1 つのアイソフォームはその機能を欠いていることが明らかになった。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる。Ref.8 (AAC51171) 配列は追加のアイソフォームである可能性がある。機能: ヘモグロビン S の産生を決定する役割を果たす可能性がある。リプレッサーとして作用する可能性がある。類似性: 遠位型ホメオボックスファミリーに属する。類似性: ホメオボックス DNA 結合ドメインを 1 つ含む。組織特異性: 白血病細胞および胎盤で発現する。腎臓および胎児肝臓でも発現する。

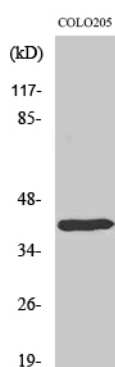
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



DLX4 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Dlx-4 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。